はままつじょうはっくつつうしん
浜松城発掘通信　№12
浜松市文化財課　2020年10月26日

本丸の構造が判明しました。

本丸北東隅にあたる石垣や本丸東側にあたる堀を確認し、本丸の規模が判明しました。浜松城の構造をうかがい知る上で重要な成果です。

発掘調査の様子

浜松城跡35次調査の成果

今回の発掘調査では、本丸を囲む堀と石垣の構造や本丸の規模などを確認しました。これまでに戦国時代から江戸時代にかけての浜松城に関連する遺構が広範囲にわたって確認でき、徐々に浜松城の構造が明らかになりつつあります。

①本丸北東部隅の石垣

②本丸東側の石垣と堀

③二の丸の建物基礎

①本丸北東部隅の石垣を確認しました。検出した石垣は最大６段（1.2m）あります。石垣の特徴から、天正18年(1590)以降、堀尾氏が整備した石垣と捉えられます。
②堀の深さは検出面から約４ｍ、幅約10mで、堀の傾斜は最大で60度あり、急傾斜です。堀の東岸には大量の石材が埋もれており、かつては上部に石垣があったと考えられます。
③二の丸で建物基礎を確認しました。江戸時代の二の丸御殿の礎石である可能性があります。

今後は、本丸北東部隅の石垣の調査をさらに進め、より詳細な状況を把握していきます。

現地説明会を開催しました。

９月26日にこれまでの調査成果を一般公開する現地説明会を開催し、700名を超える見学者に参加いただきました。

浜松城の発掘調査は平日の午前８時３０分から午後４時までの作業時間内において、敷地南西部の外側から作業状況を見学いただけます。

浜松市文化財課　電話053-457-2466